

平成 27 年度 ADCA セミナー

「国際協力への第一歩

～未来のグローバル人材に求められるスキル～」

結果報告書

平成 27 年 12 月

一般社団法人海外農業開発コンサルタント協会

1. 概要と目的

現在世界人口の60%以上が農業に従事しており、開発途上国では貧困層の4人のうち3人が農村地域に居住し、生計を農業に依存しております。更に人口の増加や気候変動などに起因する環境問題やガバナンスなどこうした地域で取り組むべき問題も複雑化・多様化しております。また近年ではエネルギー生産への穀物利用の拡大から穀物価格が高騰し、世界の食料事情が厳しい状況になりつつあります。これらの厳しい事情に対応するべく、我が国の開発途上国への政府開発援助（ODA）の基本方針は、貧困削減のための農業・農村開発分野の協力を重視しており、生産力向上などの農業農村開発を効果的・効率的に実施するために、開発途上国の政策や援助需要を踏まえつつ、我が国の経済社会発展や経済協力の経験を途上国の開発に役立てるとともに、我が国が有する優れた技術、知見、人材及び制度を活用し、貧困削減についてのプログラムを展開しております。

弊協会では毎年世界の農業農村開発の展開について国際協力の関係者（JICA 等国际協力実施機関、大学等研究機関、コンサルタント、ゼネコン、NGO 等）と今後の可能性、方向性について、我が国の農業農村開発協力の実績を振り返りながら、共に考える事を目的にセミナーを開催してきました。これまで、東京大学（平成22年）北海道大学（23年）、九州大学（24年）、鳥取大学（25年）および日本大学（26年）において第一線で活躍する農業農村開発のプロフェッショナルを招きご講演をいただいております。

このセミナーでは、国際協力に従事する様々なプレーヤーが存在する中、開発途上国において農業・農村開発に従事する人材の活動実態を正しく社会に発信し、次世代のグローバル人材となり得る皆さまに国際協力への第一歩を踏み出すきっかけ作りをすることを目指しています。また、講演や協力事例報告、パネルディスカッションを通じて、世界における農業や食料事情を提供し、我が国のODAにおける農業農村開発への理解を促進させることを目的としています。

2. 開催日時

平成27年10月7日（水）13:00～17:00（会場受付開始12:45）

3. 開催場所

東京農業大学世田谷キャンパス アカデミアセンター 横井講堂
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1丁目1-1

4. 対象

農業・農村開発、工学、社会科学系に興味を持つ学生および、技術者（民間企業、地方公共団体）

5. 主催者

一般社団法人海外農業開発コンサルタント協会（ADCA）

6. 共催者

東京農業大学

7. 後援者

農林水産省

独立行政法人国際協力機構

公益社団法人農業農村工学会、

日本沙漠学会 沙漠工学分科会

東京農業大学総合研究所 食と農の環境工学部会および沙漠緑化研究部会

8. プログラム

13:00-13:05 開会挨拶 久野 格彦 氏 (海外農業開発コンサルタンツ協会 副会長)

13:05-13:10 共催者挨拶 高野 克己 氏 (東京農業大学 学長)

13:10-13:15 来賓挨拶 宮崎 雅夫 氏 (農林水産省 農村振興局 整備部 設計課
海外土地改良技術室 室長)

第1部 講演

13:15-13:45 基調講演 黒柳 俊之 氏 (国際協力機構 理事)
「国際協力におけるコンサルタントの役割」

第2部 現場からの報告

13:45-14:10 報告 福本 晶也 氏 (三祐コンサルタンツ海外事業本部 課長)
「ルワンダ国における市場志向型農業事例の紹介」

14:10-14:30 報告 小林 稔昌 氏 (NTC インターナショナル技術本部 顧問)
「ウガンダ国灌漑地区開発計画～開発コンサルタントの実務～ (ビデオ講演)」

—休憩 (10分)—

第3部 パネルディスカッション

14:40-15:35
パネリスト：渡邊 文雄 氏 (東京農業大学 教授)
福本 晶也 氏 (三祐コンサルタンツ)
小林 維円 氏 (NTC インターナショナル)
水沼 朋子 氏 (日本工営)
鵜家 綾香 氏 (東京農業大学 博士後期課程)
モデレーター：西牧 隆壯 氏 (東京農業大学 客員教授)

15:35-15:40 閉会挨拶 北中 真人 氏 (国際協力機構 農村開発部 部長)

15:40-17:00 業界説明会 会場外にて案内ブースを設け、会社紹介・学生個別相談

9. 参加人数

300名以上

10. 成果

【第一部：基調講演】

「国際協力におけるコンサルタントの役割」

黒柳俊之（前独立行政法人国際協力機構理事）

国際協力におけるコンサルタントの役割について、前 JICA 理事の黒柳俊之氏より、①国際協力とは？開発コンサルタントとは？、②開発コンサルタントの役割、③目指して下さい国際協力への途、という3つのテーマに沿って講演が行われた。講演を始めるにあたり黒柳氏は、「開発コンサルタントは、国際協力の舞台において自らの提案を自ら実施できる職業である」と述べられ、開発コンサルタントが活躍する領域や JICA との関係について、学生たちにもわかりやすく説明が行われた。さらに、開発コンサルタントの醍醐味として、①日本を代表する仕事、②自らの技術を生かせる仕事、③開発途上国の課題解決に直接関わることが出来る仕事、④女性が男性と同等に働ける仕事、⑤元気があれば一生続けられる仕事、であると説明された。講演の結びでは、開発コンサルタントは JICA の最も大切なパートナーであることから、今後、国際協力に対する熱意をもったコンサルタントが多く集まれば、日本の ODA の質はもっと高いものになると述べられた。

【第二部：現場からの報告】

「ルワンダ国における市場志向型農業事例の紹介」

福本 晶也 氏（三祐コンサルタンツ海外事業本部 課長）

三祐コンサルタンツ海外事業本部課長の福本昌也氏は、「ルワンダ国における市場志向型農業事例の紹介」と題し、ルワンダ国小規模農家市場志向型プロジェクト（Smallholder Market-oriented Agriculture Project: SMAP）の活動内容、役割、現地での技術導入の様子について紹介。プロジェクト目標を、一般的な農業・農村開発プロジェクトに見られる生産性の増加ではなく、農家の農業収益の増加に置いている点が特徴的であるとのこと、同プロジェクトでは「市場に始まり市場に終わる農業」というスローガンを掲げ、農家が栽培前からマーケット需要を理解し、潜在的な顧客を理解した上で栽培し、ターゲットとしている顧客（市場）に戦略的に販売することで、販売交渉力を高めることを狙っているとのこと。

「ウガンダ国灌漑地区開発計画～開発コンサルタントの実務～（ビデオ講演）」

小林 稔昌 氏（NTC インターナショナル技術本部 顧問）

動画を用いてコンサルタントの現地活動の様子を紹介した。現地で活動を行っている東京農業大学の卒業生でもある同社の菊池技師にスポットを当て、同プロジェクトで従事している GIS を利用した衛星画像解析や測量関連業務、および業務調整についてやりがいや苦労話などをインタビュー形式で紹介。特に現地調査においては、現地住民にプロジェクトの目的を理解し、協力してもらうための働きかけが重要であると述べられた。

【パネルディスカッション】

東京農業大学客員教授の西牧隆壯氏による進行の下、パネリストとして東京農業大学地域環境科学部教授の渡邊氏、開発コンサルタントとして、福本氏（三祐コンサルタンツ）、小林氏（NTCインターナショナル）、水沼氏（日本工営）、そして東京農業大学大学院生である鶴家氏が登壇、セミナー参加者からの事前アンケートに対して討議が行われた。農村開発における環境・持続性への配慮、途上国現地の農家への技術移転の方法、コンサルタントの国内外での業務内容など開発現場に関する質問のほか、学生のうちから取り組むべき経験、勉強など国際協力人材となるために必要となる具体的な資格・資質に関する質問へ各登壇者から回答が述べられた。

セミナー後は会場外にて現役の開発コンサルタント等が説明ブースを設け、セミナーに参加した学生に向けて業界説明を行い、4時間におよぶ平成 27 年度 ADCA セミナーは盛況のうちに終わった。

【セミナー写真】



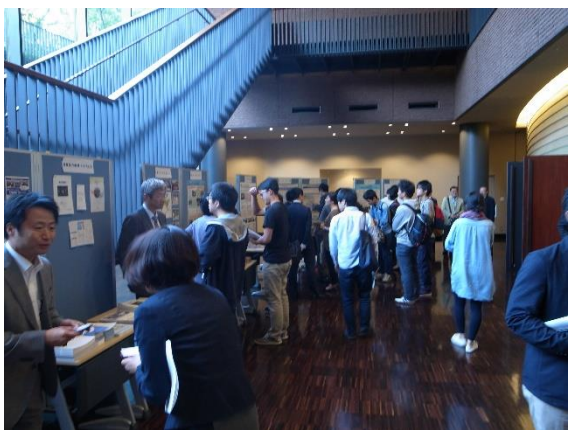
来賓挨拶（宮崎室長）



基調講演（黒柳前 JICA 理事）



パネルディスカッション



業界説明会・学生個別相談